

1. ヤンプロジャパン研修の概要と成果 和泉 章(経済産業省産業技術環境局国際電気標準課長)

- 1Q1. 英語による講義が1つしかないようですが、もっと増やしてはどうでしょうか。あるいは英語のネイティブの人の講義を入れるということも考えられます。
- 1A1. 日本語の方が講義の中身が理解しやすい一方、英語力を高める観点からは英語による授業も重要ですので、要はバランスの問題かと思います。また、同じ英語によるやり取りでも日本人同士の場合と、外国人との場合では雰囲気が違うと思います。外国の方で相応しい方をご存じであればぜひご紹介いただければと思います。
- 1Q2. 受講生の対象はどのように設定されているのでしょうか。また、どのような人物を育てようと考えているのでしょうか。
- 1A2. IEC の技術委員会（TC）などに参加するエキスパートあるいはオブザーバのレベルを想定しています。実際に受講生には IEC 東京大会の際に開催された技術委員会などにも出席された方もいます。受講後の状況を調査すると、IEC 関連の活動への参加が増えているので、その意味ではうまくいっていると思います。受講生には、自分の主張をどのように表現すればよいのか理解してもらいたいと考えています。
- 1Q3. IEC 中央事務局が行っているプログラムに比較してどうだったのでしょうか？
- 1A3. IEC は、ヤングプロフェッショナルプログラムとして、毎年の大会の際に各国の若手を集めたワークショップなどを開催していますが、日本で実施しているような教育プログラムとは異なります。IEC は各国の参加機関に対して若手人材育成の取り組みを進めるように求めています。そのなかで日本の取り組みが高い評価をもらっています。
- 1Q4. 大学レベルの教育と実務レベルの教育の連携について、どのように考えておられるのでしょうか。
- 1A4. ヤンプロジャパン研修について言えば、今のところ大学教育との連携は行っています。大学での教育と、エキスパートなどの実務レベルでの教育とは、かなり違いがあると思います。大学では、まず標準化の基礎的な教育が行われることが重要と考えます。
- 1Q5. ICES(International Cooperation for Education about Standardization)の場では、若手人材の不足が深刻と認識されていますが。
- 1A5. 受講生が興味を惹くような内容にすることが重要と思います。標準に関する知識を教えるだけでは人材を育てるのは難しいと思います。
- 1Q6. 2つ質問があります。1つはヤンプロ第1回から第4回までの応募者数はどのくらいだったのでしょうか。つまり、合格率はどのくらいだったのでしょうか。また、開催地が遠いとか長期間受講できないなど様々な理由で参加できない人がいると思います。2つ目は、ヤンプロの教育資料を標準化人材底上げのために講義のツールとして開示が可能かどうかです。
- 1A5. これまでのところは、応募いただいた皆さんに受講していただいています。2つ目のご質問についてですが、仮にテキストの開示をしたとしても、テキストを見ただけでは必ずしも十分な理解は出来ないのではないのでしょうか。講義を切り出して実施することについては、どのような場で何を活用するのか検討する必要があります。

## 2. ヤンプロジャパン研修の成果

### 2.1 1期研修生報告：ヤンプロジャパン研修の成果と今後 附田 原大(富士電機)

2Q1. 会社の標準化戦略の策定はどのようにされているのでしょうか。ご自身はその戦略に沿って活動されているのでしょうか。

2A1. 標準化戦略室が2年ほど前にでき、そこで標準化動向を取りまとめているようです。特に認証に関するものが重点です。1～2か月に1回意見交換の会議が開かれています。しかし、直接取りまとめたものはおりにきていません。

2Q2. 研修が自分の仕事にとって役立ったことは何でしょうか。

2A2. 交渉術などはかなり役立ちました。それだけでなく、プロジェクトマネジメントスペシャリストの資格を取得するなど、啓発にも役立ちました。

### 2.2 2期研修生報告：ヤンプロジャパン研修の成果 大塚 玲朗(日本品質保証機構)

2Q3. 国際標準化を通してさまざまなことができるようになることですが、それぞれをできるようにすることで国際標準化ができるようになるのではないのでしょうか？

2A3. 研修の主催者側の意図としてはそうかもしれませんが、参加者側の希望としては”国際標準化を通して”となると思います。

2Q4. これからは認証の重要性が高まっていくと思います。会社では認証に対する積極性は出てきているのでしょうか。

2A4. これまでそのようなことをあまり考えていなかったと思います。しかし、これからはどう認証ビジネスを作っていくかを考える必要があると思います。

2Q5. 認証では、国によって別々に取得しなければならないという実態があります。IECのCBスキームは、世界で共通に使える認証ツールです。ぜひ、IECの進めるCBスキームの普及に取り組んでほしいと思います。

2Q6. メーカーの方の意見やほかの認証機関との関係がわかって良かったと思います。

### 2.3 3期研修生報告：ヤンプロから始める標準化業務 池田 剛(アズビル)

2Q7. 研修を受けようとした動機は何でしょうか。

2A7. 海外での仕事があると聞きました。

2Q8. 会議の進行について学んだとのことですが、どんな形で学んだのでしょうか。

2A8. TC66の国際会議にオブザーバ参加したとき、会場設営や事務作業などについて学びました。

（以降フリーに質問）

2Q10. 国際会議にオブザーバ参加することは必須としたほうが良いと思いますか。各人にお聞きしたい。

2A10. （池田）沢山のことが得られたので必須とするのが良いと思います。

（大塚）必須が良いと思います。日本人同士の英語ではなく、インドやドイツなど多くの国籍の人と英語でやりとりすることができます。

（附田）参加したほうが良いと思います。国際会議が始まる前の雑談も重要で勉強になります。

2Q11. 研修成果としてプロジェクトリーダーが1名出たとのことですが、それだけの実力がある方なのでしょうか。通常は、提案者がプロジェクトリーダーになります。その方が提案したということでしょうか。

2A11. （和泉）伺ったところでは、提案者は別の方ですが、その方から引き継いだ形でプロジェクトリーダーをすることになったとのこと。

2Q12. 受講生の“その他”33%とはどのような方でしょうか。

2A12. （和泉）民間以外の方で、NITE や産総研などです。

2C13. 営業の方のヤンプロ受講感想を聞きたいものです。

2Q15. ヤンプロ研修の第1回から第4回と実施してこられ、気づいたことをどう反映されたのですか。

2A15. （和泉）毎回アンケートを取り、それを踏まえて見直しを行っています。見直した点としては、講義の際に受講生がディスカッションをする時間を導入したことなどがあります。

2Q16. ISO でも同じような研修が開催されているようですが、期間が短いようです。なぜでしょうか。

2A16. （和泉）研修のスケジュールの関係でそうなったようです。基本的な構成はIECのヤンプロ研修と同じです。

2Q17. ISO 特有のプログラムは何かありますか。

2A17. （和泉）ISO 関係の内容を取り入れているところがあります。

2Q18. 海外から参加希望があったら受講は可能でしょうか。

2A18. （和泉）現時点では特に考えていません。

2C19. 日本企業で働いている外国人の参加も考えられるのではないのでしょうか。新興国では、中国モデルや韓国モデルを採用しているようです。

2CXX. グローバルの視点は考慮しなければならないが、まずは日本としてどのように対応できるかを固めるレベルではないかと思います。

2Q20. 東京大会ではヤンプロ研修はどのような点が評価されたのでしょうか。

2A20. （和泉）一定の期間にきちんとプログラムを構築して実施していることです。